

第2回ノアンフェスティバルインショパンピアノコンクール

特別賞を授与された方々の体験レポート

体験レポート：2018年ノアン賞受賞 山縣美季さん

・ノアンフェスティバルの様子

ノアンフェスティバルを通して経験したことは全て、決して忘れることのない素敵な思い出となりました。アンリ先生の公開レッスンはとても刺激的で、感動と驚きの連続でした。先生の言葉1つ1つが新鮮で、あっという間に演奏や、音に対する感じ方まで変わりました。

ジョルジュ・サンドの館でのコンサートは、ショパンが色々な思いで過ごし、多くの曲を書いた空間で演奏でき、ショパンを1人の人間として、少し身近に感じることでできる貴重な経験でした。

毎日、羊小屋のホールで著名なピアニストの演奏を聴いたり、受講生の友人との会話をしたりする中で、言葉も音楽も同じで、伝えようとする意思が大切であるということ学びました。

そしてフェスティバル最終日のコンサートでもその意思を大切に、私が伝えたいことを感じてもらいたい、その一心で演奏しました。暖かい聴衆の方に聴いて頂けて、更に全身で感想を表現してくださって、本当に感無量でした。

このコンサートを始め、フランスで過ごした1週間で音楽を更に好きになり、自分でも驚くほど内面まで変わりました。滞在初日、フランス語は話せない、一人きり、と不安でたまらなかったですが、そんなことも忘れるくらい多くのことを得て、そんな自分がまるでいなくなったかのように変わりました。

音楽に対する考え方もまるで変わり、内面まで変わった、そんな刺激的な体験をできたことをとても幸せに思い、多くの方に感謝しています。またいつかノアンを訪れることができるように成長していく糧にしていきたいと思っています。



モーリスサンド劇場での
公開レッスンの様子



羊小屋のホール修了演奏会后、ベリー
地方の音楽団の閉会演奏の様子



修了演奏会后1週間共に過ごした受講生と
アンリ教授とショパン像と

体験レポート：2018年ショパン・ナイト賞受賞 稲田 つづるさん

私がノアンのお城でのコンサートに招いて頂けるなんて思ってもみませんでした。

ジョルジュ・サントの館を訪れた時は、ショパンが本当に生きていたんだ、ここに立ち、息をして、私の大好きな名曲が次々と生まれたんだと思い何だかその時代にタイムスリップしたような感覚になりました。

アルス城は中も外も歴史を感じました。石の古い匂いがして、その中で古いプレイエルを弾くと、弦の弾かれる音が一粒一粒美しく響きました。

コンサートは、ライトアップされた中で6曲弾かせて頂きました。お客様は熱心に聴いて下さり、私も喜んでほしいという気持ちで演奏しました。沢山の笑顔と拍手を頂き嬉しかったです。

ノアンでの経験は私にとって夢への第一歩です。またいつかフランスで演奏できるよう勉強していきたいと思えます。

アンリ先生、ベヒシュタインジャパンの皆様、本当にありがとうございました。

体験レポート：2018年ノアン賞受賞 森山光子さん

ショパン・ナイトでの演奏を通して。

コンサート会場のアルス城のサロンには、2台のプレイエルが用意されていた。1台は1846年製で、鍵盤数は88ないが、タッチもペダルもとても柔らかで、肉声で話すような音色だ。もう1台は1920年製。こちらは、現代の楽器により近く、低、中、高のそれぞれの音域が、はっきりとした個性を持ちながら、広がりのある響きがする。

若い頃、海外で勉強したこともあるが、古楽器をコンサートでひくのは、初めてだ。せっかくのチャンスだから、バラードは1920年製で、ノクターン、エチュードは、1846年製の楽器でひいた。

満席のお客様からの暖かい拍手と、遠方日本からやって来たピアノ好きを認めて下さるような心からの微笑みに囲まれ、ショパンを通してフランスの方々との心の交流に満たされた幸せな一夜であった。

前日に見学させて頂いた、そこかしこにショパンの息吹きを感じる美しいサンド邸での経験と合わせて、ノアンでの今回の体験でショパンの精神の深さ、強さ、気高さをよりリアルなものとして感じられるようになった気がしている。日常、95才の母の介護に奮闘中の私を、このような素晴らしい体験へと導いて下さったユーロピアノの皆様、アンリ先生はじめノアンフェスティバルのスタッフの皆様に、心からの感謝を捧げたい。

ショパンの音楽が、この混沌とした世の中を照らす一筋の光となってくれることを心から望み、ショパンを愛する方々と共に彼の音楽への理解を一步ずつ深めてゆきたいと思う。

